

## ■ ■最強の投資手法「スーパーボリンジャー」によるシンプルトレード ■ ■

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。分析は、全て、先週末3月22日の日足終値(NY時間午後5時)時点での判断です。

<<<主要7通貨相場週足、日足、4時間足、1時間足分析>>>

「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

例えば、ポジショントレードであれば、主に日足での売買判断、

スイングトレードであれば、主に4時間足での売買判断、

ゆったりデイトレードであれば、主に1時間足での売買判断、

デイトレードであれば、主に5分足での売買判断となります。

## ■ドル円

<<週足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1σラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1)遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2)終値が+2σラインの上方にて引ける、もしくは、-2σラインの下方にて引ける、
- 3)バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4)遅行スパンがローソク足のみならず、+-2σラインをブレイクすること、

等々。

#### <<日足>>

調整反騰局面の最終ターゲットである+2σラインにほぼ到達。

今後、本格上昇トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。

尚、本格上昇トレンド局面発生の際の「相場の上放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、
- 2) 終値が+2σラインの上方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+2σラインをブレイクする、等々。

上記の条件が整えば、買いエントリーが推奨される。

一方、終値が+1σラインを下回るとレンジ局面入りする可能性が高まるため、目先は売り戦略が推奨される。

#### <<4時間足>>

緩やかな上昇トレンド局面と調整反落局面が併存中。

終値が+1σラインを下回って以降、調整反落局面入りしたが、最初の押しの目途であるセンターライン近辺まで下落した後に反転上昇している。

今後、終値がセンターラインをキープするかぎり、緩やかな上昇トレンド局面と読む一方で、終値が+2σラインを超えないかぎり、調整反落局面継続のシナリオも残る。

トレード戦略としては、センターラインにかけては、一旦は押し目買いを優先させたい一方で、終値がセンターラインをブレイクすると、本格的な調整反落局面に入ることから、一転して売り戦略が有効となる。

また、終値が+2σラインをブレイクするまでは、戻り売り戦略が有効である一方で、終値が同ラインを上回ると、あらためて本格上昇トレンド局面入りするため、買い戦略が有効となる。

#### <<1時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけて

の価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

## ■ユーロドル

### <<週足>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

遅行スパンが陽転しつつもローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面だが、上昇バイアスを伴っているため、特に、センターライン以下 $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯での押し目買い戦略がより有効。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

### <<日足>>

レンジ局面の下限である $-2\sigma$ ラインにほぼ到達。

今後、本格下落トレンド局面入りするか、レンジ局面継続するかの瀬戸際に位置。

尚、本格下落トレンド局面発生の際の「相場の下放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $-2\sigma$ ラインをブレイクする、等々。

上記の条件が整えば、売りエントリーが推奨される。

一方、今後、終値が $-1\sigma$ ラインを上回ると改めてレンジ局面入りする可能性が高まるため、目先は買い戦略が推奨される。

#### <<4 時間足>>

下落バイアスを伴ったレンジ局面。

遅行スパンが陰転しつつもローソク足に絡んでいることや終値が $-2\sigma$ ラインを下回っていないことが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面だが、下落バイアスを伴っているため、特に、センターライン以上 $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯での戻り売り戦略がより有効。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

#### <<1 時間足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる  
一方、終値が同ラインを上回ると $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。  
トレード戦略としては、緩やかな下落トレンドの特徴がセンターラインと $-2\sigma$ ラインの間を往来しながらゆっくりと下落するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は戻り売り戦略が有効となる。一方、終値がセンターラインを上回ると、本格的な調整反騰局面入りする点には注意しておきたい。

### ■豪ドル/ドル

#### <<週足>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

遅行スパンが陽転しつつもローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面だが、上昇バイアスを伴っているため、特に、センターライン以下 $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯での押し目買い戦略がより有効。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

<<日足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

<<4時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が+2 $\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 $\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 $\sigma$ ラインをブレイクすること、  
等々。

### <<1 時間足>>

緩やかな下落トレンド局面と調整反騰局面が併存中。

終値が-1 $\sigma$ ラインを上回って以降、調整反騰局面入りしたが、最初の戻りの目途であるセンターライン近辺まで上昇した後に反落している。

今後、終値がセンターラインを超えないかぎり緩やかな下落トレンド局面と読む一方で、終値が-2 $\sigma$ ラインを下回らないかぎり、調整反騰局面継続のシナリオも残る。

トレード戦略としては、センターラインにかけては、一旦は戻り売りを優先させたい一方で、終値がセンターラインをブレイクすると、本格的な調整反騰局面に入ることから、一転して買い戦略が有効となる。

また、終値が-2 $\sigma$ ラインをブレイクするまでは、押し目買い戦略が有効である一方で、終値が同ラインを下回ると、あらためて本格下落トレンド局面入りするため、売り戦略が有効となる。

## ■ ポンドドル

### <<週足>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

遅行スパンが陽転しつつもローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面だが、上昇バイアスを伴っているため、特に、センターライン以下-2 $\sigma$ ラインにかけての価格帯での押し目買い戦略がより有効。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が+2 $\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 $\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、

4) 運行スパンがローソク足のみならず、 $-2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

#### <<日足>>

レンジ局面の下限である $-2\sigma$ ラインに到達。

今後、本格下落トレンド局面入りするか、レンジ局面継続するかの瀬戸際に位置。

尚、本格下落トレンド局面発生の際の「相場の下放れ」の条件は、

- 1) 運行スパンがローソク足から下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクspansion」と言う)、
- 4) 運行スパンがローソク足のみならず、 $-2\sigma$ ラインをブレイクする、等々。

上記の条件が整えば、売りエントリーが推奨される。

一方、今後、終値が $-1\sigma$ ラインを上回ると改めてレンジ局面入りする可能性が高まるため、目先は買い戦略が推奨される。

#### <<4時間足>>

本格下落トレンド局面。

終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

#### <<1時間足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、緩やかな下落トレンドの特徴がセンターラインと $-2\sigma$ ラインの間を往来しながらゆっくりと下落するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は戻り売り戦略が有効となる。一方、終値がセンターラインを上回ると、本格的な調整反騰局面入りする点には注意しておきたい。

## ■ユーロ円

### <<週足>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

遅行スパンが陽転しつつもローソク足に絡んでいることや、終値が+2 $\sigma$ ラインを上回っていないことなどが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面だが、上昇バイアスを伴っているため、特に、センターライン以下-2 $\sigma$ ラインにかけての価格帯での押し目買い戦略がより有効。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が+2 $\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 $\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 $\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

### <<日足>>

調整反落局面。

終値が+1 $\sigma$ ラインを下回ったことで、調整反落局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は売りを優先させたい局面。

そして、センターラインは最初の押しの目途となるが、終値がセンターラインを下回ると、-2 $\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反落局面に入る。

一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから-2 $\sigma$ ラインにかけての価格帯は、一旦は押し目買いゾーンと読む。

また、終値が+2 $\sigma$ ラインを上回るまでは、+1 $\sigma$ ラインから+2 $\sigma$ ラインのゾーンは一旦は戻り売りチャンスと判断する。

### <<4時間足>>

調整反落局面の最終ターゲットである-2 $\sigma$ ラインにほぼ到達。



今後、本格下落トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。

尚、本格下落トレンド局面発生の際の「相場の下放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $-2\sigma$ ラインをブレイクする、等々。

上記の条件が整えば、売りエントリーが推奨される。

一方、終値が $-1\sigma$ ラインを上回るとレンジ局面入りする可能性が高まるため、目先は買い戦略が推奨される。

### <<1時間足>>

調整反騰局面入りの兆候。

終値が $-1\sigma$ ラインを上回って以降、調整反騰局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は買いを優先させたい局面。

そして、センターラインは最初の戻りの目途となるが、終値がセンターラインを上回ると、 $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面に入る。

一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、遅行スパンが陽転しないかぎり、センターラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は、一旦は戻り売りゾーンと読む。

また、終値が $-2\sigma$ ラインを下回るまでは、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインのゾーンは一旦は押し目買いチャンスと判断する。

## ■豪ドル円

### <<週足>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

遅行スパンが陽転しつつもローソク足に絡んでいることや、終値が $+2\sigma$ ラインを上回っていないこと、バンド幅が収束傾向であることなどが判断根拠。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面だが、上昇バイアスを伴っているため、特に、センターライン以下 $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯での押し目買い戦略がより有効。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が+2σラインの上方にて引ける、もしくは、-2σラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2σラインをブレイクすること、  
等々。

#### <<日足>>

調整反落局面。

終値が+1σラインを下回ったことで、調整反落局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は売りを優先させたい局面。

そして、センターラインは最初の押しの目途となるが、終値がセンターラインを下回ると、-2σラインを目指す本格的な調整反落局面に入る。

一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから-2σラインにかけての価格帯は、一旦は押し目買いゾーンと読む。

また、終値が+2σラインを上回るまでは、+1σラインから+2σラインのゾーンは一旦は戻り売りチャンスと判断する。

#### <<4時間足>>

本格的な調整反落局面。

終値がセンターラインを下回っており、-2σラインを目指す本格的な調整反落局面入りしていると判断。

トレード戦略としては、目先、売り戦略が有効な場面ではあるが、今後、遅行スパンが陰転しないかぎり、-1σラインから-2σラインのゾーンは、一旦は押し目買いチャンスと読む。尚、今後、遅行スパンが陰転し、終値が-2σラインを下回り、バンド幅が拡大傾向に転じる場合は、本格下落トレンド局面入りする点には念のため注意しておきたい。

#### <<1時間足>>

調整反騰局面。

終値が-1σラインを上回って以降、調整反騰局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は買いを優先させたい局面だが、センターラインが上値レジスタンスとなって反落のシナリオもあり、今後、終値がセンター

ラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面に入る可能性が高まる。  
一方、終値がセンターラインを上回ると、本格的な調整反騰局面に入る。  
尚、今後、終値が $-2\sigma$ ラインを下回るまでは、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインのゾーンは、一旦は押し目買いチャンスと判断する。  
また、遅行スパンが陽転しないかぎり、センターラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は、一旦は戻り売りゾーンとなる。

## ■ポンド円

### <<週足>>

本格上昇トレンド局面。  
終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。  
すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。  
トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。  
そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

### <<日足>>

調整反落局面。  
終値が $+1\sigma$ ラインを下回ったことで、調整反落局面入りしている。  
トレード戦略としては、短期的に一旦は売りを優先させたい局面。  
そして、センターラインは最初の押しの目途となるが、終値がセンターラインを下回ると、 $-2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反落局面に入る。  
一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る可能性が高まる。  
尚、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は、一旦は押し目買いゾーンと読む。  
また、終値が $+2\sigma$ ラインを上回るまでは、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインのゾーンは一旦は戻り売りチャンスと判断する。

### <<4時間足>>

調整反落局面の最終ターゲットである $-2\sigma$ ラインに到達。

今後、本格下落トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。

尚、本格下落トレンド局面発生の際の「相場の下放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $-2\sigma$ ラインをブレイクする、等々。

上記の条件が整えば、売りエントリーが推奨される。

一方、終値が $-1\sigma$ ラインを上回るとレンジ局面入りする可能性が高まるため、目先は買い戦略が推奨される。

<<1 時間足>>

調整反騰局面。

終値が $-1\sigma$ ラインを上回って以降、調整反騰局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は買いを優先させたい局面。

そして、センターラインは最初の戻りの目途となるが、終値がセンターラインを上回ると、 $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面に入る。

一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、遅行スパンが陽転しないかぎり、センターラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は、一旦は戻り売りゾーンと読む。

また、終値が $-2\sigma$ ラインを下回るまでは、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインのゾーンは一旦は押し目買いチャンスと判断する。

以上です。